

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名 宮城県 受託団体名 (財)宮城県スポーツ振興財団みやぎ広域スポーツセンター

実践テーマ 子どものスポーツ活動の充実
～スポーツ好きを育てる～

【テーマ設定の理由】

県内の総合型地域スポーツクラブ(以下総合型クラブ)の運営について、表記事業テーマに対するモデル事業を通し、活動が活性化することで、本県の他の総合型クラブの活動にも波及効果をもたらし、各設立地域における総合型クラブ設立の意義を広め、各設立地域の活性化に結びつける。また、県教育委員会や広域スポーツセンター、体育協会等の既存の団体による連携を促進し、本年における設立済み総合型クラブへの支援体制を整備充実することをねらいとする。

実践クラブ評価委員会

丸山 富雄 氏
(仙台大学教授)

谷山 知宏 氏
(宮城県教育庁スポーツ健康課主幹)

高橋 稔 氏
(財団法人宮城県体育協会事業課長兼スポーツ少年団課長)

山内 直子 氏
(NPO法人宮城県レクリエーション協会事務局長)

阿部 利夫 氏
(松島町教育委員会スポーツ振興センター長)

熊谷 和彦 氏
(気仙沼市教育委員会生涯学習課長)

課題解決のために連携をとった機関・団体

- | | |
|---------------------|------------|
| ■宮城県教育庁スポーツ健康課 | ■気仙沼市教育委員会 |
| ■財団法人宮城県体育協会 | ■ |
| ■NPO法人宮城県レクリエーション協会 | ■ |
| ■松島町教育委員会 | ■ |

【上記機関・団体と連携をとった効果】

宮城県体育協会や宮城県レクリエーション協会においては、クラブ所在市町のスポーツ少年団やスポーツ指導者の紹介、再委託先クラブ所在市町教育委員会においては、学校及び地域の関係団体との調整等協力いただくことで、クラブ育成やクラブを中心とした地域づくりの連携体制が発揮でき、各実践クラブのスポーツ活動による地域づくりの気運の高まりを感じ取ることが出来るようになった。

宮城県教育庁スポーツ健康課については、全体進行のアドバイスなどいただけしたことにより、広域スポーツセンターが実践する事業がより効果的に行えた。

実践クラブ名 NPO法人マリソル松島スポーツクラブ

【クラブ概要】

- ・設立年月日 平成 18 年 6 月 24 日 設立
- ・クラブ所在地 宮城県松島町
- ・クラブの特色 昭和40年松島町サッカースポーツ少年団として設立。その後一貫的なサッカー環境を構築し、平成17年から多種目化を目指している。
平成18年6月に多種目化に合わせNPO法人格を取得するとともに総合型地域スポーツクラブとして活動を始めた。
障害者スポーツの普及活動も行なっている。
- ・クラブマネジャーの活動状況 常勤・有給
- ・会員数(H20.7.1現在) 333 人 ・定期活動種目数 10 種目
- ・会費の種類と金額 キッズサッカー・テニス3000円、バドミントン3000円、レスリング3000円
サッカージュニア3500円、ジュニアユース3000円、トップ3000円シニア2000円
※月会費
- ・平成20年度総予算額 16,000,000 円

実践プロジェクト① キッズスポーツレッスン

◆プロジェクトのねらい

現在の少子化や子どものスポーツ離れは社会的に問題視されており、松島町においても将来の各種スポーツ少年団の活動の存続に不安さえ感じる現状である。
これを踏まえ、特に未就学児から小学生低学年を対象としたプログラム展開を当クラブが中心となり町教育委員会及び町スポーツ少年団本部や体育協会と連携した事業を実施し、運動不足な子どもに気軽に楽しいスポーツ活動ができる環境を充実させることをねらいとした。

◆実施概要

親子コーディネーション・水泳・ボール遊び等

◆参加者数 534 名（開催回数18回）

◆活動の様子



芝の上で、ゲームを親子で楽しむ様子。



スイミング以外にも水中ゲームも楽しむ様子

◆評価

1回の開催の中で、テンポ良く種目を変え、子どもの意欲を引き出すプログラムであった。
子どもの意欲が向上するにつれ、保護者のスポーツに対する意識変化が見られた。
運動嫌いの子どもが休まず楽しみに来てくれるようになった。

実践プロジェクト② スケート教室

◆プロジェクトのねらい

動きの中に変化をつけ、バランス能力を向上するため、日常的に体験できない「滑る」事を体験する。
親子で参加し、コミュニケーションを深める。

◆実施概要

スケート

◆参加者数 28 名（開催回数 1回）

◆活動の様子



慣れない氷上で、壁につかまる様子 1時間ほどで、ほとんどの子どもが歩ける程度に

◆評価

1時間ほどで、立ち歩ける程度にレベルアップ。キッズスポーツレッスンでの運動体験の効果とも考えられる。

地域のスケート指導者を新たに発掘することが出来た。
スタッフもイベント企画の自信へつながった。

本事業の成果

松島町教育委員会と広域スポーツセンター間でも情報の共有化を図り、地域やクラブへアドバイスできたことで、実践したクラブ事業については、多くの地域住民に本事業を周知することが出来た。

関係団体にも今回の目的を受け入れていただき、再委託したクラブとの地域連携を得ることができた。特に子どもの体力低下や地域の人づくり、既存団体間の横連携による地域づくりに効果的な事業として理解いただけたことや、アンケートを通して、スポーツ参加意識や総合型地域スポーツクラブそのものの理解促進につながり、地域の活力につながったと感じる。

クラブにおいては、指導者の意識変化も現れ、指導者としてのリーダーシップだけでなく、指導者自らが、子どもと楽しむ姿が見られるようになった。

本事業の課題と今後の取組

- ・実態の効果を測定するには、前後の測定と長期的な視野で対処する必要があると思える。
- ・そのため、今後も継続的にクラブ活動として行なって行き、多くの子どもの参加を促して行くことが必要である。
- ・大人のスポーツに対する意識改革も同時進行し、楽しいの延長上に競技があるようなシステム構築も必要となる。
- ・本事業の委託を受けることにより、広域スポーツセンターとクラブの連携がよりスムーズに行なえるきっかけとなった。
- ・クラブは、より多くの親子での参加を増やすために、口コミによる広がりだけでなく、定期的に広報して行く必要もある。